

大学教育連携センター運営委員会

平成21年度

第1回 平成22年 1月19日(火)

平成22年度

第1回 平成22年 5月26日(水)

平成23年度

第1回 平成23年 6月21日(火)

第2回 平成24年 1月17日(火)

第3回 平成24年 3月 5日(月)



第1回大学教育連携センター運営委員会

1 日 時 平成22年1月19日(火) 16:30~17:30

2 場 所 岡山理科大学 第9号館(学園本部) 第1会議室

3 参加者 大学教育連携センター運営委員

4 議題案

- (1) 大学教育連携センター運営委員会委員の承認について
 - ・委員長の選出

- (2) 岡山オルガノンの事業内容について
 - ・全体の取組・組織
 - ・岡山理科大学の担当について

- (3) センターの業務内容について

- (4) センター予算の執行状況について
 - ・既執行および執行予定額について

- (5) 今年度のセンターの進め方について
 - ・運営委員による関係イベントへの参加および報告書作成
 - ・「岡山オルガノン代表者委員会」「連携評価委員会」の設置および開催
 - ・LMS および VOD 等のサーバー等管理業者の選定および契約
(ランニングコストについて連携校に相談)
 - ・ICT 活用教材作成講習会の開催、コンテンツの作成
 - ・次年度導入予定の MCU (多地点接続装置) の検討
 - ・ホームページ (<http://okayama-organon.jp>) の充実
 - ・広報用パンフレットの作成
 - ・以下、岡山オルガノンの共通計画
 - 2010/01/22 第1回岡山オルガノン代表者委員会の開催
 - 2010/02? 文部科学省「平成22年度補助金調書」作成・提出
 - 2010/03/14 「第1回岡山オルガノンFD・SDシンポジウム」開催
 - 2010/03/15 第1回連携評価委員会(大学コンソーシアム岡山代表者会議と同日開催)
 - 2010/04/10 文部科学省「平成21年度補助金実績報告書」作成・提出

(6) その他必要な事項について

6 大学教育連携センター運営委員会委員（平成21年度）

職名	氏名	役割分担
副学長	金 枝 敏 明	全体の指導助言
副学長	豊 田 真 司	共同 FD・SD 委員会
情報科学科教授、 情報処理センター長	大 西 荘 一	e-Learning 運営委員会 双方向コンテンツ委員会
応用物理学科、 「科学 try アングル岡山」 岡山理科大学サテライトオフィス代表	米 田 稔	戦略 GP 理大担当者としての指導助言者
大学事務局長	渡 邊 良 人	全体の指導助言
大学事務局次長就職部長	榎 本 豊	実践的キャリアアップ委員会※
大学事務局次長庶務部長	奥 山 晃	共同 FD・SD 委員会
経理部長	乙 倉 博 史	会計取扱代表
教務部長	平 岡 裕	学士課程教育連携委員会 社会活動参画委員会※
学生部長	太田垣 博 一	社会活動参画委員会※ 地域活性化委員会
入試広報部長	森 裕 一	広報宣伝活動
人間・社会科学教育センター長	三 木 恒 治	学士課程教育連携委員会 実践的キャリアアップ委員会※
学外連携推進室次長	高 原 周 一	教育 GP 代表としての指導助言者
学外連携推進室次長	金 子 典 正	事業事務取扱代表 事務担当者（代表）
学外連携推進室課長	御 倉 賀 恵	事業事務取扱副代表
教務課長兼学事課長	三 川 博	e-Learning 運営委員会
情報科学科教授、 学外連携推進室副室長	木 村 宏	事業推進責任者 大学教育連携センター長 岡山オルガノン代表者委員会 e-Learning 運営委員会
建築学科教授	竹 内 涉	大学教育連携センター副センター長 岡山オルガノン代表者委員会 双方向コンテンツ委員会 e-Learning 運営委員会 学内連絡調整担当者
大学教育連携センター コーディネーター	佐 藤 大 介	岡山オルガノン代表者委員会 コーディネーター e-Learning 運営委員会

※印は予定

第1回大学教育連携センター運営委員会議事録（案）

日 時：平成22年1月19日（火）16：30～17：45

場 所：岡山理科大学 第9号館（学園本部） 第1会議室

出席者：4ページ「出席者一覧」参照

議 案：

冒頭、木村センター長から、会議の進行上、委員長が決まるまでの間、議長として進行させていただく旨の発言があり、了承された。

1. 大学教育連携センター運営委員会委員の承認について

（1）委員長の選出

議長より金枝委員を委員長に指名したい旨の提案があり、提案どおり了承された。

（2）大学教育連携センター運営委員会委員の承認について

木村センター長から配布資料に基づき、大学教育連携センター運営委員会委員および役割分担について説明があり、了承された。

2. 岡山オルガノンの事業内容について

（1）全体の取組・組織

（2）岡山理科大学の担当について

木村センター長から配布資料「岡山オルガノンに関する学内委員について（平成21年度）」「平成21年度大学改革推進等補助金（大学改革推進事業）調書」に基づき以下のとおり説明がなされ、了承された。

- ・「岡工学担当」は岡山理科大学からオルガノン加盟大学へ授業配信を行う。
- ・「e-Learning 運営委員会」は岡山理科大学を中心に遠隔授業の実施・運営・検討を行う。
- ・「学士課程教育連携委員会」は岡山大学を中心に教養教育科目の選定・単位互換等制度の検討を行う。
- ・「共同FD・SD委員会」は岡山大学を中心に共同FD・SDの実施・検討を行う。
- ・「双方向コンテンツ委員会」は岡山商科大学を中心にボランティア・プロフェッサ科目の配信・検討、コーディネート科目の構築を行う。
- ・「地域活性化委員会」は岡山商科大学を中心に地域活性化シンポジウムやエコナイトの開催等を行う。
- ・「実践的キャリアアップ委員会」は中国学園大学を中心に実践的キャリア教育・指導者派遣等の実施・運営を行う。
- ・「社会活動参画委員会」は中国学園大学を中心に学生の社会活動参画実施を行う。本委員会については地域活性化委員会との整合性の再検討が必要であり、組織化については未定である。
- ・本年度の補助事業実施計画はほぼ当初予定どおり進んでいる。ただ、遠隔授業に関しては事業規模も大きいため来年度へ一部事業の繰り延べを行う可能性があるが、ご了承いただきたい。

3. センターの業務内容について

佐藤コーディネーターより配布資料「大学教育連携センターの業務内容について」に基づき説明がなされ、了承された。

4. センター予算の執行状況について

(1) 既執行および執行予定額について

佐藤コーディネーターより配布資料「岡山オルガノン会計帳簿（補助金調書）」に基づき以下のとおり説明がなされ、了承された。

- ・委員の方々にはフォーラムおよびシンポジウムに積極的にご参加いただき、他大学等の取組について情報収集を図り、岡山オルガノンの取組に活用していただきたい。
- ・遠隔教育用コンテンツについて、業者や作成方法がまだ決まっていないため、至急 e-Learning 運営委員会を開催して決定する予定である。

5. 今年度のセンターの進め方について

(1) 運営委員による関係イベントへの参加および報告書作成

佐藤コーディネーターより配布資料「国公立私立大学を通じた大学教育改革の支援に関するイベント一覧」に基づき以下のとおり説明がなされ、了承された。

- ・資料に未記載のイベントであっても、岡山オルガノンに関連したものであれば積極的にご参加いただきたい。なお、イベントの参加希望は1月29日（金）までにご連絡いただきたい。
- ・イベント参加の際は、岡山オルガノンの取組に関連した報告書をご提出いただきたい。

(2) 「岡山オルガノン代表者委員会」「連携評価委員会」の設置および開催

木村センター長より配布資料「岡山オルガノン代表者委員会」「岡山オルガノン」連携評価委員会要項（案）」「連携評価委員会名簿（案）」に基づき以下のとおり説明がなされ、了承された。

- ・岡山オルガノン代表者委員会は、事業全体の方針策定等を目的に各連携大学の代表者および各サテライトオフィスのコーディネーターで構成され、年2回程度開催する予定である。今年度の第1回代表者委員会は1月22日（金）に開催される予定である。
- ・連携評価委員会の要項（案）および名簿（案）の内容について、ご了承いただきたい。

(3) LMSおよびVOD等のサーバー等管理業者の選定および契約

木村センター長より配布資料「e-Learning 実施における交渉業者について」「連携取組におけるランニングコスト（月額）について」に基づき以下のとおり説明がなされ、了承された。

- ・資料では GR パートナース株式会社の見積金額を記載しているが、今後競争入札を行う予定である。
- ・VOD 方式の遠隔事業を実施するに当たり、Momotaro System のユーザーライセンス費用とサーバー管理やメンテナンス等の外部委託費用が発生する。初年度は補助金で全額計上する予定だが、次年度以降はユーザーライセンス費用のみを受講生数に応じて各連携大学に負担していただくことを代表者委員会に提案する予定である。
- ・VOD コンテンツ作成に関して、通常の対面型教育を録画・編集する方法および別途講義

を収録してパワーポイント資料等と合成・編集する方法の二通りがあるが、その作成方法および業者を e-Learning 運営委員会で決定する予定である。

- ・ランニングコストの回線費用は、テレビ会議システムで NTT 西日本が提供する B フレッツ回線を用いた IP-VPN を利用するためのもので、平成 21 年 9 月 29 日に開催された第 1 回ネットワーク担当者会議で各連携校に月額利用料金を支払っていただく旨の了承を得ている。

(4) ICT活用教材作成講習会の開催、コンテンツの作成

佐藤コーディネーターより以下のとおり説明がなされた。

- ・教職員に対して、VOD 教材およびテレビ会議システムに関する講習会を年度内に開催したい。

(5) 次年度導入予定のMCU（多地点接続装置）の検討

佐藤コーディネーターより以下のとおり説明がなされた。

- ・来年度の導入に向け、これから業者と検討を進めていきたい。

(6) ホームページ (<http://okayama-organon.jp>) の充実

佐藤コーディネーターより配布資料「ホームページ構成」に基づき説明がなされた。

(7) 広報用パンフレットの作成

佐藤コーディネーターより以下のとおり説明がなされた。

- ・今年度に作成する広報用パンフレットは、連携校の全教職員、県内高校、平成 20・21 年度採択分戦略GP、大学コンソーシアム、その他関係団体・機関などに配布する予定である。

(8) 岡山オルガノンの共通計画

佐藤コーディネーターより配布資料に基づき、今後の活動予定について説明がなされ、了承された。

6. その他必要な事項について

(1) 次回開催予定について

次回の開催は、必要に応じて日程調整の上、開催することとなった。

出席者一覧

職 名	氏 名	出欠確認
副学長	金 枝 敏 明	出席
副学長	豊 田 真 司	出席
情報科学科教授、 情報処理センター長	大 西 荘 一	出席
応用物理学科、 「科学 try アングル岡山」 岡山理科大学サテライトオフィス代表	米 田 稔	出席
大学事務局長	渡 邊 良 人	欠席
大学事務局次長就職部長	榎 本 豊	出席
大学事務局次長庶務部長	奥 山 晃	出席
経理部長	乙 倉 博 史	欠席
教務部長	平 岡 裕	出席
学生部長	太田垣 博 一	欠席
学生部次長	猪 口 雅 彦	代理出席
入試広報部長	森 裕 一	出席
人間・社会科学教育センター長	三 木 恒 治	出席
学外連携推進室次長	高 原 周 一	出席
学外連携推進室次長	金 子 典 正	出席
学外連携推進室課長	御 倉 賀 恵	出席
教務課長兼学事課長	三 川 博	出席
情報科学科教授、学外連携推進室副室長	木 村 宏	出席
建築学科教授	竹 内 涉	出席
大学教育連携センター コーディネーター	佐 藤 大 介	出席
学生部参事	寺 田 智 信	オブザーバー



第1回大学教育連携センター運営委員会

1 日 時 平成22年5月26日(水) 16:45~18:00

2 場 所 岡山理科大学 第9号館 3階 第1会議室

3 参 加 者 大学教育連携センター運営委員

4 議 題 案

(1) 平成21年度事業報告について 【資料1】

- ・事業実績、補助金執行、連携評価報告

(2) 平成22年度事業計画について 【資料2】

- ・事業計画、補助金予算、策定方針、年間活動予定
- ・大学コンソーシアム岡山、山陽新聞社との業務委託契約について

(3) 岡山オルガノン事業における学内懸案事項について 【資料3】

- ・単位互換科目履修受付期間の延長について
- ・ライブ型遠隔授業科目の提供について(岡山学)
- ・VOD科目の提供について(情報セキュリティ入門等)
- ・VODコンテンツ撮影編集部屋借使用について
- ・多地点接続装置の設置場所(学内/岡山情報ハイウェイ)について
- ・エコナイトの実施方法について
- ・実務担当者の役割分担について

(4) その他必要な事項について

- ・第1回大学連携シンポジウムの開催

6 大学教育連携センター運営委員会出席者一覧

職 名	氏 名	出欠
副学長	金 枝 敏 明	欠
副学長	豊 田 真 司	欠
情報科学科教授	大 西 荘 一	出
応用物理学科教授	米 田 稔	出
大学事務局長代理	平 田 實	欠
大学事務局次長、就職部長	榎 本 豊	欠
庶務部長	松 原 久美子	欠
経理部長	乙 倉 博 史	欠
学務部長	榊 原 道 夫	欠
学務部参与	太田垣 博 一	出
入試広報部長	森 裕 一	出
教養教育センター所長	竹 田 邦 雄	欠
学外連携推進室次長	高 原 周 一	欠
学外連携推進室次長	金 子 典 正	出
学外連携推進室課長	御 倉 賀 恵	出
学外連携推進室課長	小 夜 美知子	出
学務部事務部長	井 元 敏 夫	出
大学教育連携センター長	木 村 宏	出
大学教育連携センター副センター長、情報処理センター所長	竹 内 渉	出
大学教育連携センターコーディネーター	佐 藤 大 介	出
大学教育連携センターe-Learning 専門スタッフ	岡 戸 真理子	出

第 1 回大学教育連携センター運営委員会議事録

日 時：平成 22 年 5 月 26 日（水）16：45～18：00

場 所：岡山理科大学 第 9 号館 3 階 第 1 会議室

出席者：6 ページ「出席者一覧」参照

議 案：

1. 平成21年度事業報告について

佐藤コーディネーターより、「資料 1」に基づき報告がなされた。

(1) 事業実績、補助金執行、連携評価報告

・平成 21 年度事業実績について。

◇平成 21 年 9 月に岡山理科大学（代表校）に大学教育連携センターを設置し、11 月 29 日に設立記念シンポジウムを開催した。

◇全連携校の取組担当者およびコーディネーターで組織される岡山オルガノン代表者委員会を平成 21 年 12 月に設置し、平成 22 年 1 月 22 日と 2 月 25 日に委員会を開催して今後の事業展開や事業経費等についての審議を行った。

◇平成 22 年 3 月 15 日に連携評価委員会を岡山理科大学にて開催し、外部の方による評価報告書を作成した。

◇テレビ会議システムを第 11 号館 6 階第 2 実習室に設置した。岡山理科大学では今年度後期よりライブ型遠隔授業を開始する予定である。

◇VOD を活用した e-Learning 運営委員会を立ち上げ、それに係る LMS サーバーの設置、ソフトウェアの設定等を行った。今後の運用方法について等、連携校の方々に理解していただくため ICT 活用教材作成講習会を実施した。

・平成 21 年度補助金執行について、岡山理科大学から約 148 万円の返還金が発生した。

◇設備備品費について、テレビ会議システム一式およびコンテンツ作成用撮影編集機材一式を購入したが、当初の計画よりも安く購入できたため残金が発生した。

◇旅費について、外部との打ち合わせ回数が見込みより少なかったため残金が発生した。

◇人件費について、アルバイトを雇わなくても進められたため残金が発生した。

◇事業推進費について、消耗品費および委託費が当初の見込みより多くなったため、他の費目から流用した。

・平成 21 年度評価報告書の改善要求に基づき、平成 22 年度補助事業実施方針を策定した。特に連携校教職員間および連携校間において本取組に対する温度差があるという指摘が多かったため、本事業取組を各大学の教授会等にて随時報告および学内での情報共有強化等を連携校にお願いした。

・委員より、e-Learning 運営委員会にしても現在うまく進んでいるとは思えない、センターが先走り過ぎている感があるので運営の仕方を考慮してほしいとの意見が出された。

2. 平成22年度事業計画について

佐藤コーディネーターより、「資料 2」に基づき説明がなされ、了承された。

(1) 事業計画、補助金予算、策定方針、年間活動予定

- ・平成 22 年度の事業計画としては、前年度は準備期間だったが、今年度は実際に運用を開始するとともにその方法について検証を行い、取組内容の追加・修正をしていく。
- ・岡山理科大学に割り当てられている平成 22 年度補助金について、設備備品としては多地点接続装置一式を購入する。現在のテレビ会議システムでは 5 拠点（カスケード接続では 10 拠点）までしか接続できないため、15 大学すべて接続できるようにするための装置である。
- ・資料の赤字箇所は、平成 22 年度補助金調書を提出した際に文部科学省より査定があり、若干の減額要請があったため変更した箇所である。

(2) 大学コンソーシアム岡山、山陽新聞社との業務委託契約について

- ・共同 SD 研修会の開催並びに実践的体験型プログラムの実施にあたり、山陽新聞社および大学コンソーシアム岡山に業務委託するための契約書（「配布資料 2-13～2-20」）を作成した。配布資料の訂正箇所として、甲の名称を「岡山オルガノン大学教育連携センター」から「岡山理科大学」に、甲の代表者を「センター長 木村宏」から「学長 波田善夫（岡山オルガノン事業推進代表者）」に変更した。この内容でよいかとの確認がなされ、了承された。
- ・委員より、契約関係は法人対法人で結ぶ形の方がよいので、今後は理事長名で契約を交わした方がよいとの意見が出された。
- ・委員より、業務委託費は発生するののかとの質問がなされ、木村センター長より、「配布資料 2-5～2-6」に記載している「共同 SD 活動に関する業務委託費 140 千円」および「実践的体験型プログラムに関する業務委託費 233 千円」がそれに該当するとの回答がなされた。

3. 岡山オルガノン事業における学内懸案事項について

(1) 単位互換科目履修受付期間の延長について

木村センター長より、「資料 3-1」に基づき報告がなされた。

- ・岡山大学が所掌している学士課程教育連携委員会で、岡山オルガノン科目の履修受付期間（前期：4月1～7日、後期：7月1～7日）が非常に短期間であるため、その期間の変更または延長ができないかとの提案がなされた。現在、連携大学に履修受付期間の変更について希望調査を実施している。

(2) ライブ型遠隔授業科目の提供について（岡山学）

木村センター長より、以下の説明がなされた。

- ・「岡山学」を岡山オルガノンのライブ型遠隔授業科目として提供していただけることが決定し、現在その準備を進めている。実際の授業配信は来年度前期より行う。岡山理科大学として、岡山学を B 2 群の新設科目として設定していただきたい。そのため、7 月頃をめどにシラバス等の骨子を決定し、第 1 学部運営委員会等に諮って了承を得た上で科目設定していただけるよう現在準備を進めている。岡山学のライブ授業を VOD で撮影し、今後 VOD 科目にすることができるか現在検討中である。
- ・ライブ型遠隔授業の問題点として、講義開始時間が各大学で違うことが上げられる。そ

の対策として、1時限目の開始時間を一番早い講義開始時間の大学に合わせることはできないか等の意見も出ている。現在はライブ授業をビデオ撮影し、遅れて始まった大学へ録画したものを講義後に送るという方法で対応することとしている。

- ・委員より、連携大学すべての講義開始時間を合わせるの難しいと思うので、特別な場合を除き原則ライブ型遠隔授業科目はVOD科目として並行して実施すべきではないかとの意見が出され、木村センター長より、岡山商科大学が所掌する双方向コンテンツ委員会で提案してみるとの回答がなされた。

(3) VOD科目の提供について（情報セキュリティ入門等）

木村センター長より、「資料3-2～3-5」に基づき説明がなされた。

- ・平成22年度の後期配信科目について、加計教育コンソーシアムがサイバーキャンパスで配信中の「インターネット入門」、「アルゴリズム入門」、「環境考古学」、「情報社会とモラル」の4科目をオルガノンの科目として認可していただくように交渉中であり、5月末には配信の可否が決定することになっている。ただし、加計グループの大学ではこれらの科目は既にサイバーキャンパス科目として単位互換科目に設定されているので、受講許可が得られない可能性がある。
- ・平成22・23年度にVODコンテンツを作成する科目については、現在連携大学に調査票を配布し、調査を進めている段階である。
- ・平成23年度配信科目として、JNSA（日本ネットワークセキュリティ協会）の方を講師として「情報セキュリティ入門」をご提供いただける予定であり、現在準備を進めている。
- ・委員より、B2群の「情報セキュリティ入門」について、岡山理科大学の学生はサイバーキャンパスで受講することになるのかとの質問がなされ、木村センター長より、現在は岡山オルガノンで受講する方向で進めているとの回答がなされた。
- ・委員より、LMSについての質問が他大学からあった場合にどこが責任を持って回答するのかとの質問がなされ、木村センター長より、基本的にはヘルプデスクである岡戸が対応するとの回答がなされた。
- ・大西委員より、現時点でヘルプデスクがすべて対応するのは無理だと思うので、外部から質問があった場合にはメーリングリスト等でGRパートナーズにも私にも連絡が来るようにしてほしいとの意見が出され、木村センター長より、そういう形にさせていただくとの回答がなされた。
- ・委員より、e-Learning運営委員会の委員長はだれなのかとの質問がなされ、木村センター長より、現在委員会要項がないため私が代行しているが、今後は要項を作成して委員長を選出する予定であるとの回答がなされた。

(4) VODコンテンツ撮影編集部屋借使用について

木村センター長より、以下の報告がなされた。

- ・現在、情報処理センター6階の部屋をお借りしているが、何部屋か確保しておきたいこともあり、今後学内で他の部屋も借りる予定にしている。

(5) 多地点接続装置の設置場所（学内／岡山情報ハイウェイ）について

木村センター長より、以下の説明がなされた。

- ・高大連携の手段として、テレビ会議システムを経由する形で岡山情報ハイウェイに接続するか検討中である。ただ、その場合は多地点接続装置を学外に設置することになる。また、相手方の高校にもテレビ会議システムが必要となるため、実情調査を早急に行い、方針決定を行いたい。
- ・委員より、補助金で購入した財産を学外に設置する場合は手続が必要なので、その点だけご留意いただきたいとの意見が出された。
- ・委員より、高大連携を実現させるためにはライブ形式よりも VOD 形式の方がよいのではないかと、高額なテレビ会議システムの購入も必要ないため、そちらも検討してみてもとの意見が出され、木村センター長より、来年度の計画の中でそういう形も検討していきたいとの回答がなされた。

(6) エコナイトの実施方法について

木村センター長より、「資料3-6～3-9」に基づき説明がなされた。

- ・岡山オルガノン事業の取組の一環として、産学官連携のエコ啓発のための環境教育実践活動である「エコナイト」を実施することが決定しており、岡山理科大学の今年度の七夕エコナイトについて、富岡先生と荒木先生、大学教育連携センターのメンバーで検討した。前年度は学生部が中心に活動したが、今年度は機構改革で学生部がなくなったため、実行委員会という新組織を立ち上げて企画・運営する方向で検討中である。この実行委員会については、次回の学部長等会議でご了承をいただき次第、活動していく予定である。また、岡山オルガノン事業の一環ということで、大学教育連携センターもこちらに参加させていただき、できるだけ立派なイベントにしたいと考えている。
- ・岡山オルガノンの連携大学での取組としては、岡山商科大学の地域活性化委員会を中心に、各大学で独自イベントを行うとともに共通取組として7月7日20時の「ライトダウン」、通勤にできるだけ車の利用を控える「マイ・カー乗るまゝ day」を実施することに決定した。
- ・「資料3-6」は5月13日付山陽新聞の掲載記事で、ペガサスキャンドル(株)が廃食油でキャンドルを作製する事業を今秋より開始するというものである。岡山オルガノンの事業として、こちらの会社と協力し、学生に会社見学をさせていただくとともにエコナイト用にキャンドルを作っていただけないか、現在交渉中である。
- ・委員より、前年度は帰りの臨時バスを手配したが今年度はどうするのかとの質問がなされ、木村センター長より、前年度は大学コンソーシアム岡山で費用を負担して手配したが、今年度は学長経費で負担していただけないか現在確認中であるとの回答が出された。

(7) 実務担当者の役割分担について

佐藤コーディネーターより、「資料3-10～3-11」に基づき説明がなされた。

- ・平成22年度岡山オルガノンの学内委員について、学部運営委員会の方で了承された。
- ・岡山理科大学において各種実務担当者が決定していないため、できればこの場で選出いただきたい。各種実務担当者には、文部科学省からの問い合わせや事業推進上で事務的な質問や手続の必要があった際に、センターや各オフィスからの問い合わせに対応いた

だきたいと考えている。「会計」「教務」「単位互換」「学生」「就職」「情報」の6種類だが、「単位互換」については大学コンソーシアム岡山の担当者が行うことになっているため「澤原次長」を記載させていただいている。

- ・委員より、今回の会議で人選するのは難しいと思うので、素案を作成して事務の会議等で諮っていただいた方がいいのではとの意見が出され、了承された。

4. その他必要な事項について

佐藤コーディネーターより、以下の説明がなされ、了承された。

(1) 第1回大学連携シンポジウムの開催

- ・学生や大学教職員、地域一般が共同で参画できる事業実施を目指し、6月12日(土)に第1回大学連携シンポジウムを開催する。
- ・「大学連携で地域を変える」を全体テーマに、基調講演とシンポジウムを行う。基調講演は両備グループ代表小嶋光信氏に、シンポジウムはファシリテーターに倉敷芸術科学大学小山悦司氏、パネリストに両備グループ代表小嶋光信氏、岡山県新庄村長笹野寛氏、岡山県立岡山一宮高等学校教諭森泰三氏、岡山大学経済学部学生で現倉敷小町の森山梨花氏にお願いする予定である。
- ・教職員や学生のみならず地域一般の方々にもご参加いただける企画にしており、施設も500人弱収容できる会場のため、学内をはじめ地域一般にも広く広報宣伝活動を行っていただきたい。

出席者一覧

職 名	氏 名	出欠
副学長	金 枝 敏 明	欠
副学長	豊 田 真 司	欠
情報科学科教授	大 西 荘 一	出
応用物理学科教授	米 田 稔	出
大学事務局長代理	平 田 實	欠
大学事務局次長、就職部長	榎 本 豊	欠
庶務部長	松 原 久美子	欠
経理部長	乙 倉 博 史	欠
学務部長	榊 原 道 夫	欠
学務部参与	太田垣 博 一	出
入試広報部長	森 裕 一	出
教養教育センター所長	竹 田 邦 雄	欠
学外連携推進室次長	高 原 周 一	欠
学外連携推進室次長	金 子 典 正	出
学外連携推進室課長	御 倉 賀 恵	欠
学外連携推進室課長	小 夜 美知子	出
学務部事務部長	井 元 敏 夫	欠
大学教育連携センター長	木 村 宏	出
大学教育連携センター副センター長、情報処理センター所長	竹 内 渉	出
大学教育連携センターコーディネーター	佐 藤 大 介	出
大学教育連携センターe-Learning 専門スタッフ	岡 戸 真理子	出



平成23年度 第1回大学教育連携センター運営委員会

1 日 時 平成23年6月21日(火) 16:45～18:00

2 場 所 岡山理科大学 第9号館(本部) 3階 第1会議室

3 参 加 者 大学教育連携センター運営委員

4 議 題 案

(1) 平成22年度事業報告について **【資料1】**

- ・事業実績、補助金執行、連携評価報告、年間活動表

(2) 平成23年度事業計画について **【資料2】**

- ・事業計画、補助金予算、策定方針、年間活動予定

(3) 平成24年度以降岡山オルガノン事業継承について **【資料3】**

- ・将来構想委員会報告
- ・平成24年度以降の岡山理科大学の役割
大学教育連携センターの存続について
VOD型遠隔教育の維持について
ライブ型遠隔教育の運用について
- ・エコナイトの実施方法

(4) その他

- ・大学連携による地域活性化シンポジウムの紹介 **【資料4】**

大学教育連携センター運営委員会出席者一覧

職 名	氏 名	出欠
副学長	金 枝 敏 明	出
副学長	豊 田 真 司	欠
情報科学科教授	大 西 荘 一	出
応用物理学科教授	米 田 稔	出
大学事務局長	石 田 史 郎	欠
大学事務局次長、キャリアセンター事務部長	榎 本 豊	出
大学事務局次長、学務部事務部長	宮 本 正	欠
庶務部長	松 原 久美子	出
経理部長	乙 倉 博 史	出
学務部長	榊 原 道 夫	出
学務部参与	太田垣 博 一	出
入試広報部長	森 裕 一	欠
教養教育センター所長	北 川 文 夫	出
学外連携推進室次長	松 浦 洋 司	欠
学外連携推進室次長	金 子 典 正	出
学外連携推進室課長	御 倉 賀 恵	出
学外連携推進室	瀬 戸 徹 也	出
大学教育連携センター長	木 村 宏	出
大学教育連携センター副センター長、情報処理センター所長	竹 内 渉	出
大学教育連携センターコーディネーター	北 村 光 一	出
大学教育連携センターe-Learning 専門スタッフ	岡 戸 真理子	出

第1回大学教育連携センター運営委員会議事録（案）

日 時：平成23年6月21日（火）16：45～18：00

場 所：岡山理科大学 第9号館 3階 第1会議室

出席者：4ページ「出席者一覧」参照

議 案：

1. 委員長の選出

木村センター長より金枝委員を委員長に指名したい旨の提案があり、提案どおり了承された。

2. 平成22年度事業報告について

木村センター長より、「資料1」に基づき報告がなされた。

（1）事業実績、補助金執行、連携評価報告、年間活動表

・平成22年度事業実績について。

①22年5月より、VODコンテンツの撮影・編集作業のためe-Learning専門スタッフを配置した。

②全連携校の取組担当者および大学教育連携センター・各オフィスのコーディネーターで組織される岡山オルガノン代表者委員会を年3回開催した。

③平成21年9月1日から平成22年9月末まで報告期間とし、中間報告書を作成した。

④平成22年6月12日に、「大学連携で地域を変える」をテーマに両備グループ小嶋光信代表を講師に迎え、大学連携シンポジウムを開催した。

⑤平成23年1月24日～25日に秋葉原コンベンションホール他で開催された「平成22年度大学教育改革プログラム合同フォーラム」に参加し、ポスター展示会への出展も行って広く本事業を広報できた。

⑥平成23年3月14日に第2回連携評価委員会を岡山理科大学にて開催し、外部の方による評価報告書を作成した。

⑦20拠点までの同時接続ができる多地点接続用サーバーと、ギガビットVPNルーターを購入した。

⑧VOD科目については、平成22年度後期に3科目配信し、177名が受講した。

・平成22年度評価報告書の改善要求に基づき、平成23年度補助事業実施方針を9項目策定した。

3. 平成23年度事業計画について

木村センター長より、「資料2」に基づき説明がなされ、了承された。

（1）事業計画、補助金予算、策定方針、年間活動予定

・平成23年度の事業実施計画は18項目あり、21年度および22年度の成果と課題に基づき、より充実した事業展開を図り、補助期間終了後の継続に向けて「岡山オルガノン」の基礎を構築する。

・本取組の連携校教職員および大学コンソーシアム岡山運営委員で組織される将来構想委

員会を開催し、補助期間終了後の本取組の継続的な実施に向け、大学コンソーシアム岡山との組織統合の具体的な進め方等について協議を行っている。

- ・今年度の事業全体の予算は 57,262 千円、うち岡山理科大学は 20,896 千円となっている。
- ・岡山理科大学の設備備品費として「ライブ型遠隔授業表示装置一式」および「テレビ会議システム用カメラ一式」と記載しているが、テレビ会議システムの設置教室が 11 号館 6 階から 5 階に移設されたため、当初計画から多少用途変更した購入を検討している。
- ・オルガノン遠隔教育の実績について、平成 22 年度ライブ配信科目は 5 科目、受講学生数は 20 名、VOD 配信科目は 3 科目、受講学生数は 178 名であった。平成 23 年度前期のライブ配信科目は 7 科目、受講学生数は 11 名、VOD 配信科目は 6 科目、受講学生数は 184 名であった。今年度前期の VOD 配信科目に受講者数制限をかけたものがあり、当大学では早期に履修打ち切りを行い、受講したくても受講できない学生が出た。

4. 平成24年度以降岡山オルガノン事業継承について

木村センター長より、「資料 3」に基づき報告がなされた。

(1) 将来構想委員会報告

(2) 平成24年度以降の岡山理科大学の役割

- ・昨年 9 月に開催された大学コンソーシアム岡山代表者会議で将来構想委員会の設置が決定され、本年 1 月から既に 5 回（準備会を含む）開催している。
- ・大学コンソーシアム岡山への事業継承にかかる経費として、多地点接続装置の保守費用 1,059 千円（年額）、コンテンツ配信サーバーの保守費用 1,860 千円（年額）がある。現在、両方とも当大学の設備備品となっており補助金より支出しているが、連携校 15 大学で使用しているので、分割して負担してもらえるよう委員会で検討している。さらに、遠隔教育を担当する職員を、補助金終了後も大学コンソーシアム岡山事務局に最低 1 名採用する方向で検討している。
- ・オルガノン事業を継続していくため新たに必要な経費として、遠隔教育を継続していくための保守費用等システム運営費として 300 万円、遠隔教育を担当していく職員の人件費として 300 万円、計 600 万円を向こう 3 年間、大学コンソーシアム岡山の事業推進費として試算し、各大学の負担については「固定額（17 万円）＋変動経費（学部学生数×@100 円）」という金額で委員会に提案している段階である。
- ・岡山理科大学として検討いただきたいのは、VOD コンテンツの撮影機材等を当大学の物品として補助金で購入しているが、その機材を大学コンソーシアム岡山へ提供いただけるのか。また、多地点接続装置は当大学に設置されているので、その運用・管理等も必要になり、大学コンソーシアム岡山にすべて任せるといったことはできないだろうと考えている。そういう面で、今度どういう形で大学教育連携センターの機能を継続していくか検討いただきたい。
- ・金枝委員より、大学コンソーシアム岡山の経費から捻出することはできないのかとの質問があり、木村センター長より、大学コンソーシアム岡山の経費は事務局 1 名の人件費と吉備創生カレッジの講師料が大部分を占めており、それを削るのは難しいとの回答がなされた。

- ・榑原委員より、600万円というのは、この事業の発展性等は考えず、とりあえず維持するための費用になるのかとの質問があり、木村センター長より、維持するために必要な金額として計上しているとの回答がなされた。
- ・榑原委員より、遠隔教育担当職員の採用を検討しているが、その職員が新しいコンテンツを作成するのか、それとも補助期間中に作成したコンテンツを維持する程度になるのかとの質問があり、木村センター長より、新しいコンテンツを作成するかどうかは現在のところ未定であるが、既に作成しているコンテンツの修正作業は必要になるだろうとの回答がなされた。
- ・大西委員より、来年度以降はVOD科目等で高等学校にも参加いただいてみてはどうか。高等学校が参加すれば連携校もさらに協力してくれると思うとの意見がなされ、木村センター長より、一部科目については高等学校の参加も可能だと思うので、そのような新しい試みもぜひ取り入れていきたいとの回答がなされた。
- ・金子委員より、大学教育連携センターおよびサテライトオフィスが行っている事業の中で、具体的にどの取り組みを継承し、どの取り組みを縮小していくのかとの質問がなされ、木村センター長より、組織体制については次回の将来構想委員会で検討する予定だが、大学コンソーシアム岡山の各事業部に関連するオルガノンの事業を継承させていく計画である。ただ、従来通りの事業部だけでは運用し切れないので、特にセンターおよびサテライトオフィスを置いていた大学を中心に事業部を支援していく体制にすべきだろうとの回答がなされた。
- ・榑原委員より、当大学として組織をどのように継承されるのかとの質問がなされ、木村センター長より、将来構想委員会の検討内容を踏まえて早急に原案を作成し、この運営委員会で検討いただきたいとの回答がなされた。
- ・榑原委員より、オルガノン事業を大学コンソーシアム岡山へ継承するための事業推進費の額が決定するのはどの段階かとの質問がなされ、木村センター長より、本年9月に開催予定である大学コンソーシアム岡山の代表者会議で決定されるとの回答がなされた。

(3) エコナイトの実施方法

- ・7月7日(木)に、スカイテラスで七夕エコナイトを開催する予定である。また、岡山商科大学オフィスを中心に岡山駅東口広場でもエコナイトに関連したイベントを実施する計画であるので、学内一斉ライトダウン、マイカー乗るまあ day 等、協力をお願いしたい。

(4) その他

- ・木村センター長より、「資料4」に基づき大学連携による地域活性化シンポジウムの紹介がなされた。

出席者一覧

職 名	氏 名	出欠
副学長	金 枝 敏 明	出
副学長	豊 田 真 司	欠
情報科学科教授	大 西 莊 一	出
応用物理学科教授	米 田 稔	出
大学事務局長	石 田 史 郎	欠
大学事務局次長、キャリアセンター事務部長	榎 本 豊	出
大学事務局次長、学務部事務部長	宮 本 正	欠
庶務部長	松 原 久美子	欠
経理部長	乙 倉 博 史	出
学務部長	榊 原 道 夫	出
学務部参与	太田垣 博 一	出
入試広報部長	森 裕 一	欠
入試広報部	吉 見 芳 也	代理
教養教育センター所長	北 川 文 夫	出
学外連携推進室次長	松 浦 洋 司	欠
学外連携推進室次長	金 子 典 正	出
学外連携推進室課長	御 倉 賀 恵	出
学外連携推進室	瀬 戸 徹 也	出
大学教育連携センター長	木 村 宏	出
大学教育連携センター副センター長、情報処理センター所長	竹 内 渉	出
大学教育連携センターコーディネーター	北 村 光 一	出
大学教育連携センターe-Learning 専門スタッフ	岡 戸 真理子	出



平成23年度 第2回大学教育連携センター運営委員会

1 日 時 平成24年1月17日(火) 10:30~12:00

2 場 所 岡山理科大学 50周年記念館 3階会議室

3 参 加 者 大学教育連携センター運営委員

4 議 題 案

(1) 平成23年度事業報告について **【資料1】**

(2) 岡山オルガノン事業の継承案について **【資料2】**

(3) 岡山理科大学の今後の役割 **【資料3】**

(4) その他

大学教育連携センター運営委員会出席者一覧

職 名	氏 名	出欠
副学長	金 枝 敏 明	欠
副学長	豊 田 真 司	欠
情報科学科教授	大 西 荘 一	出
応用物理学科教授	米 田 稔	出
大学事務局長	石 田 史 郎	出
大学事務局次長、キャリアセンター事務部長	榎 本 豊	出
大学事務局次長、学務部事務部長	宮 本 正	出
庶務部長	松 原 久美子	出
経理部長	乙 倉 博 史	欠
学務部長	榊 原 道 夫	出
学務部参与	太田垣 博 一	出
入試広報部長	森 裕 一	欠
教養教育センター所長	北 川 文 夫	欠
学外連携推進室次長	松 浦 洋 司	出
学外連携推進室次長	金 子 典 正	出
学外連携推進室課長	御 倉 賀 恵	出
学外連携推進室	瀬 戸 徹 也	出
大学教育連携センター長	木 村 宏	出
大学教育連携センター副センター長、情報処理センター所長	竹 内 渉	出
大学教育連携センターコーディネーター	北 村 光 一	出
大学教育連携センターe-Learning 専門スタッフ	岡 戸 真理子	出

第2回大学教育連携センター運営委員会議事録（案）

日 時：平成24年1月17日（火）10：30～12：30

場 所：岡山理科大学 50周年記念館 3階会議室

出席者：4ページ「出席者一覧」参照

議 案：

1. 平成23年度事業報告について

木村センター長より、「資料1」に基づき報告がなされた。

- ・①大学教育連携センターは本取組全体の統括を行い、会議開催、情報発信充実に向けた取組、補助金適正化に向けた取組を実施し、連携校間の連絡調整や情報共有等、オルガノン事業における中心的な役割を果たしている。
- ・②本取組の連携校教職員および大学コンソーシアム岡山運営委員で組織される将来構想委員会は、平成23年1月から12月までに計8回実施し、補助期間終了後の本取組の継続的な実施について大学コンソーシアム岡山と連携しながら協議を行い、原案を作成した。1月20日に開催される大学コンソーシアム岡山の臨時代表者会議で提案する予定である。
- ・③全連携校の取組担当者および大学教育連携センター・各オフィスのコーディネーターで組織される岡山オルガノン代表者委員会を年2回開催した。第2回の会議では、大学コンソーシアム岡山への事業継承について、将来構想委員会の原案を提案し、了承が得られた。
- ・④平成23年12月3日、理大ホールにて「岡山オルガノン事業報告会」を開催した。「社会の中の大学」をテーマに文部科学省高等教育局大学振興課大学改革推進室長 樋口 聡氏に基調講演いただき、その後、全連携校より本事業に対する成果および課題について報告いただいた。本事業における今後の課題が明確となり将来へさらに深化させた事業展開を実施するための1つの大きな方向性を見出すことができた。
- ・⑤他大学の先進事例を視察して今後の事業継承に活用するため、平成23年度「大学教育改革プログラム合同フォーラム」の参加を今年度の事業計画に組み込んでいたが、文部科学省より諸般の事情のためフォーラム開催が中止になった旨の連絡があった。
- ・⑥本事業の最終報告書は本編と資料編の2部構成とし、本編には平成21年9月1日から平成23年9月末までの取組内容についてまとめ、冊子として発行する。資料編はCDのみの作成にとどめ、平成23年10月1日から平成24年3月末までの取組内容は資料編の方に追加収録する。平成24年1月20日に第3回連携評価委員会を岡山理科大学にて開催する予定である。
- ・⑧VOD型科目について、平成23年度は前期6科目、受講者は184名、後期12科目、受講者は229名が受講した。11月10日に開催したICT活用教材作成講習会は、「まなびオルガノンの効果的な活用について」という内容でLMSの基本操作や活用方法について説明を行い、事業継承後の遠隔教育について情報共有を行った。

- ・ライブ型科目について、平成 23 年度は前期 7 科目、受講者は 11 名、後期 7 科目、受講者は 16 名が受講した。受講者が伸びない理由として、高等教育課程におけるキャップ制度等が挙げられる。

2. 岡山オルガノン事業の継承案について

木村センター長より、「資料 2」に基づき説明がなされ、了承された。

- ・各連携校および大学コンソーシアム岡山から委員を選出して将来構想委員会を計 9 回開催し、大学コンソーシアム岡山と検討・協議しながら、大学コンソーシアム岡山への事業継承および再編案を作成した。大学コンソーシアム岡山運営委員会および岡山オルガノン代表者委員会で原案が了承され、1 月 20 日に開催される大学コンソーシアム岡山臨時代表者会議へ提案する予定である。
- ・補助期間終了後の継承事業として、遠隔教育事業、共同 FD・SD 事業、地域活性化事業、学生交流事業、社会人基礎力育成事業の 5 つの事業について、それぞれの実施体制を再編成等行って継承することに決まった。
- ・各オフィスおよび 6 委員会については、統合して大学コンソーシアム岡山の 3 事業部（大学教育事業部、産学官連携事業部、社会人教育事業部）に 3 委員会を新設し、事業継承に当たることが決定した。
- ・事業遂行に必要な経費（事業推進費）として、総額 402 万 3,000 円（年額）を連携校 15 大学で負担する。負担割合は各大学一律 15 万円＋在学学部生数当 50 円で決まった。また、遠隔教育を維持するためのシステム維持費として、大学コンソーシアム岡山の事業推進費とは別に各大学で約 35 万円（年額）を負担することに決定した。
- ・事業継承については、平成 26 年度まで継続することを想定し、それ以後の計画については平成 26 年度に再検討することとした。
- ・大学コンソーシアム岡山の運営委員会で、オルガノン事業継承のため、次期会長校を岡山理科大学にお願いできないかとの提案がなされたが、まだ決定していない。次期会長校については、1 月 20 日に開催される大学コンソーシアム岡山臨時代表者会議で決定される予定であるが、会長校の当番制ルールについて正式に決定する必要がある。
- ・榊原委員より、単位互換科目について、補助期間終了後もオルガノンの提供科目ということで変わらないのかとの質問があり、木村センター長より、平成 24 年度はオルガノンの提供科目とするが、平成 25 年度以降は大学コンソーシアム岡山の提供科目として統一しようと考えているとの回答がなされた。
- ・金子委員より、大学コンソーシアム岡山会長校の当番制について、岡山市近隣に立地する学生規模の大きい大学（例えば学生数 1,500 名以上）という条件が挙げられているが、条件を学生数 1,000 名以上のみにするとか、もう少しわかりやすくした方がいいのではとの意見がなされた。
- ・大西委員より、ライブ型科目の受講者数が少ないが、担当教員は今後も引き続き授業を提供してくれるのかとの質問がなされ、木村センター長より、現在のところ提供を中止するという大学はないが、ライブ型科目には多くの課題が残されており、今後も委員会等で協議が必要である、本学が配信している「岡山学」は次年度 VOD 科目として配信

することが決まっているとの回答がなされた。

- ・榊原委員より、来年度以降、オルガノンの運営委員会はどうなるのかとの質問がなされ、木村センター長より、オルガノンの運営委員会は今年度で廃止し、来年度以降は大学コンソーシアム岡山の委員会に統合するとの回答がなされた。
- ・榎本委員より、大学コンソーシアム岡山の運営委員会および企画会議で了承された案について、連携大学内で了承されているのかとの質問がなされ、木村センター長より、大学コンソーシアム岡山の運営委員会で了承されたということは各大学でも了承されたということだと考えている。本学では学長等会議で了承いただいた上で進めているとの回答がなされた。

3. 岡山理科大学の今後の役割

木村センター長より、「資料3」に基づき説明がなされた。

- ・オルガノン事業を継承するために岡山理科大学として必要な経費は、事業推進費負担額 414,000 円（年額）、遠隔教育システム維持費 345,384 円（年額）である。ただし、この金額は平成 23 年度実績で算出しており、今年度の契約によっては金額の変更があり得る。
- ・大学コンソーシアム岡山会長校を岡山理科大学が引き受けた場合、事務局の設置場所および運営委員長の選任等の検討が必要になる。また、オルガノンで購入した資産は岡山理科大学の資産として計上されているが、大学コンソーシアム岡山としてどういう形で利用申請を出すのか検討が必要である。
- ・オルガノンの対外的な事業継承体制について、学外連携推進室の配下に置き、担当者を設置いただきたい。また、平成 24 年 4 月中は大学教育連携センターの残務処理要員の継続雇用をお願いしたい。
- ・大学コンソーシアム岡山および岡山オルガノンの事業推進に関する岡山理科大学内での支援と情報共有のため「大学連携会議（仮称）」を学内に新設し、大学コンソーシアム岡山事務局は学外連携推進室の所管のもと設置したいと考えている。
- ・文部科学省より出された平成 24 年度の大学関係予算に、大学間連携共同教育推進事業（30 億円）が新設された。この補助金に対し、大学コンソーシアム岡山で申請することを検討している。
- ・金子委員より、事務局の実質的な職務内容は学務に関することが多いので、「学外連携推進室兼務職員」という部分の「学外連携推進室」という表記を省いてもらいたいとの意見がなされ、了承された。

出席者一覧

職 名	氏 名	出欠
副学長	金 枝 敏 明	欠
副学長	豊 田 真 司	欠
情報科学科教授	大 西 莊 一	出
応用物理学科教授	米 田 稔	欠
大学事務局長	石 田 史 郎	欠
大学事務局次長、キャリアセンター事務部長	榎 本 豊	出
大学事務局次長、学務部事務部長	宮 本 正	欠
庶務部長	松 原 久美子	欠
経理部長	乙 倉 博 史	欠
学務部長	榊 原 道 夫	出
学務部参与	太田垣 博 一	出
入試広報部長	森 裕 一	欠
教養教育センター所長	北 川 文 夫	欠
学外連携推進室次長	松 浦 洋 司	出
学外連携推進室次長	金 子 典 正	出
学外連携推進室課長	御 倉 賀 恵	出
学外連携推進室	瀬 戸 徹 也	出
大学教育連携センター長	木 村 宏	出
大学教育連携センター副センター長、情報処理センター所長	竹 内 涉	出
大学教育連携センターコーディネーター	北 村 光 一	出
大学教育連携センターe-Learning 専門スタッフ	岡 戸 真理子	出



平成23年度 第3回大学教育連携センター運営委員会

1 日 時 平成24年3月5日(月) 16:00～17:00

2 場 所 岡山理科大学 9号館 3階 第一会議室

3 参 加 者 大学教育連携センター運営委員

4 議 題 案

(1) 岡山オルガノン事業の継承案について

【資料1】

(2) 岡山理科大学の今後の役割

【資料2】

(3) その他

大学教育連携センター運営委員会出席者一覧

職 名	氏 名	出欠
副学長	金 枝 敏 明	出
副学長	豊 田 真 司	出
情報科学科教授	大 西 荘 一	欠
応用物理学科教授	米 田 稔	欠
大学事務局長	石 田 史 郎	出
大学事務局次長、キャリアセンター事務部長	榎 本 豊	出
大学事務局次長、学務部事務部長	宮 本 正	出
庶務部長	松 原 久美子	出
経理部長	乙 倉 博 史	欠
学務部長	榊 原 道 夫	出
学務部参与	太田垣 博 一	出
入試広報部長	森 裕 一	出
教養教育センター所長	北 川 文 夫	出
学外連携推進室次長	松 浦 洋 司	出
学外連携推進室次長	金 子 典 正	出
学外連携推進室課長	御 倉 賀 恵	出
学外連携推進室	瀬 戸 徹 也	欠
大学教育連携センター長	木 村 宏	出
大学教育連携センター副センター長、情報処理センター所長	竹 内 涉	出
大学教育連携センターコーディネーター	北 村 光 一	出
大学教育連携センターe-Learning 専門スタッフ	岡 戸 真理子	出